

キックすかさか R75/5 4速ミッション

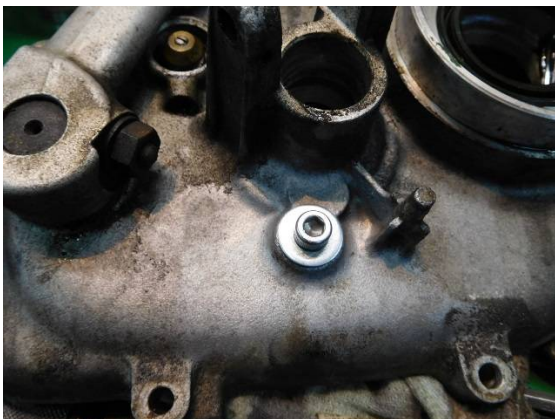
キック始動をしていたら急にスカスカになりオイルが漏れてきた。そんな意味不明の電話があった。BMWはプライマリーキックではないのでクラッチレバーを握るとキックペダルはスカスカになり始動できなくなります。ニュートラル以外キック始動できません。ギアが入っていると前進します。ギアボックス後端のクラッチリリース部を覗くとマンホールかブラックホールみたいにただただ黒くなっています。同じモデルと比較するとピンが無くなっていることが判りました。今回、運が良いことに脱落した部品は他の部品に噛み込まず無傷のまま底に横たわっていました。



黒いだけで何が何だか???



本来はピンが圧入されている



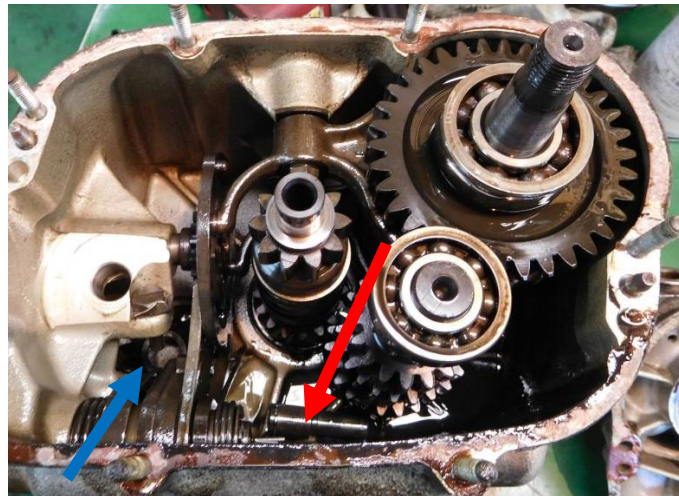
これは加工後の景色



手元にあった筆を差し込んでみる



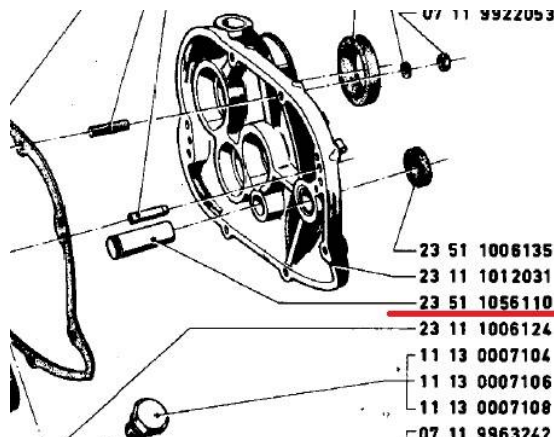
なんていうことでしょう!!!



カバーを取ってみると ピン(赤) アイドラーギア(青)が見えます



取り出したギアと段付き圧入ピン



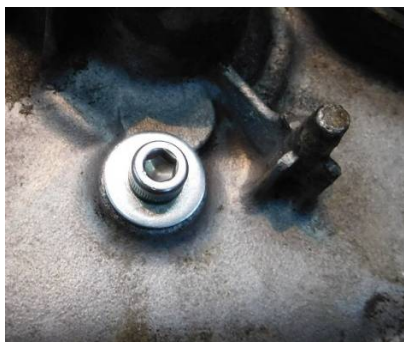
R50-69S用 当時はピンだけの部品設定があったようです(ストレート・ピン)

R50-69S用を踏襲した/5の4速ギアボックスですがアイドルギアはそのまま流用しましたが従来のD15ストレート・ピンだと位置決め出来ないためか、D15/12の段付きに変更されています。これなら打ち込み量を間違えないので苦労することはありません。しかし結果として小径化したことで表面積が減少して嵌め合いが甘くなり動いてしまったのではないのでしょうか。

修理例：今回はすでに内部に脱落していたのでギアボックスを下ろし、分解する必要がありました。新品のギアボックス・カバーに代えても再発のリスクがあるため加工したほうが賢明かと思います。ピン中央に穴を開け、M6タップでメネジ成形、ピンより大きなワッシャーを取り付けスクリューで固定すればもう脱落しません。



オイルの流れた痕跡が認められます



強力ロックタイトを塗布して緩まないように



これなら外から作業できる解決策

予防作業例：

ピン脱落のこの症状はけっこうポピュラーのようで中古車で購入したら加工痕があったりします。無対策のあなたは決して指で押さないでください！ 動くかどうか試さないでください！ 絶対後悔します。オイルが漏れた痕があるとか、走行後の温間時にキックを少し下して連動してピンが回転していないかなど確認します。すでに少し移動して凹んでいる場合はネオジム磁石（永久磁石で最強）で引き出し、脱脂してエポキシなどで接着固定すれば当面安心できるのではないのでしょうか。

